

令和4年度（2022年度）

# 事業報告書

令和4年（2022年）4月1日から  
令和5年（2023年）3月31日まで

一般財団法人 MRAハウス

## 目 次

	ページ番号
<事業概況>	1
<公益目的事業>	1
<b>【Ⅰ】『国際相互理解の増進』を図る事業（継1）</b>	
<b>【自主事業】</b>	1
●国際交流事業プログラムの推進（OCA 国際交流事業）	
<b>【助成事業】</b>	
1) 学生団体	2
2) 一般団体	5
3) 特別枠	6
<b>【寄付事業】</b>	8
<b>【会費】</b>	8
<b>【Ⅱ】『国際リーダー・人材育成』を図る事業（継2）</b>	
<b>【助成事業】</b>	9
1) 一般団体	9
2) 特別枠	9
<b>【Ⅲ】『民間公益活動の振興』を図る事業（継3）</b>	
<b>【助成事業】</b>	11
1) 特別枠	11
<b>【会費】</b>	11
<その他の事業>	
<b>【自主事業】</b>	12
●次世代育成事業（若手リーダー育成研修事業）	

# 令和4年度（2022年度）事業報告

## <事業概要>

本年度も新型コロナウイルスの感染が収束せず、我々の活動も各種の制約を受けたが、次第に渡航も自由となり、海外との交流はオンラインから対面での交流が可能になった年でもあった。

OCA 国際交流事業では、訪日プログラム一本、タイ訪問プログラム二本がリアライズし、より多くの人が気軽に参加できるオンラインプログラムと併せて、総勢 214 名の参加を得た。財団としては、これらの参加者を如何にして MRA 精神の良き理解者になって頂くかの課題は残り、今後は事務所スペースを人が心地よく集まれる場とする努力を通して、世界で活躍できる人材の確保・育成に努めていきたい。

次世代育成事業（若手リーダー育成研修等）においては、人材発掘を目的とした各種催事（報告会・勉強会・交流会・面談等）を計 22 回実施、MRA 関係者を除いた 96 名の参加者を得た。また、道徳倫理実践コミュニティ「MAMORAL」や澁澤雅英政倫研究所の創設など、全体ロードマップと具体策の検討と準備を進めると共に、MRA 関係者へのインタビューを実施して、研修事業の基盤づくりを行った。

助成事業に関しては、現在の社会環境下、学生団体の二本のプログラムが実施できず、日本国際交流センター（JCIE）では二本が実施の延期などの理由で減額されたため、助成実施額は予算を約 400 万円下回ることになった。

## <公益目的事業>

「国際相互理解の増進」「国際リーダー・人材育成」「民間公益活動の振興」を図る事業は、「自主事業」「助成事業」「寄付事業」「会費」を通して、次の通り推進した。

### 【I】「国際相互理解の増進」を図る事業（継1）

#### 【自主事業】

#### ●国際交流事業プログラムの推進（OCA 国際交流事業）

##### ①サマーキャンプ

新型コロナウイルス流行により 5 月のタイ学生訪日プログラムが 3 年続けての中止となった。タイの大学の先生たちと話し合い 8 月にタイの学生を迎えてサマーキャンプを行った。

期間 8 月 1 日～6 日 参加者タイ学生 16 名、先生 1 名。中央、埼玉、慶応大学の学生 29 名、スタッフ 4 名。東京に入らない、徹底的な感染対策を行い感染者、発熱者を出さずプログラムを終えることできた。

開催場所は山梨県北杜市小淵沢「女神の森」

## ②アジアンビートオンライン④

5月21日～6月5日 アジア各国の参加者が集まり歌やダンスを通じてアジアにメッセージを発信する動画をオンラインで製作する事業。これを通じて友情を育み、将来のオフラインのアジアンビートで再会し、韓国、インドネシアを訪問することを予定している。参加者スタッフ8名（日本3名、インドネシア2名、韓国、タイ、米国各1名）、キャスト24名（インドネシア7名、韓国2名、台湾、フィリピン、マレーシア、ベトナム、ネパール各1名、日本10名）。

## ③オンラインタイ勉強会セミナー

5月19日「メーコックと山岳民族の現状」講師関口輝比古（国際労働財団バンコク所長）他3名、参加者20名。9月14日「バーンロムサイと社会貢献」講師名取美穂（バーンロムサイジャパン代表理事）他1名、参加者30名。9月15日「タイの経済格差とバンコクスラムの現状」講師関口輝比古、参加者32名。

## ④北部タイツアー

10月23日～31日 サマーキャンプ及びオンラインタイ勉強会セミナーの参加者を中心に日本から中央13名、先生1名、埼玉2名、OCAスタッフ3名、タイからチュラ大8名、MFU10名、先生1名。訪問先バンコク市内スラム、チュラ大にてセミナー。チュラ大生とともにチェンライへ、MFU訪問その後タイの山岳民族の児童養護施設メーコックへ。子供たちと交流、少数山岳民族の村訪問。チェンマイへ移動しバーンロムサイの施設視察、名取さんの講演、子供たちと交流。バンコクへ移動し振り返りの会。

## ⑤cocoWA プロジェクト

12月25日～2023年1月2日 事前ミーティングを3回オンラインで行った後メーコックを訪れた。参加者9名、スタッフ3名、合計12名。  
長い期間滞在し共に生活し相互に交流を行う。参加者が交流内容を考える。言葉を越える交流、ダンスや歌を通して協調性、社会性を子どもたちに学んでもらう。年越しのイベントに参加したり、洪水被害の復興のお手伝いで汗を流したりと濃い体験であった。

## ⑥慶應タイツアー

2023年3月24日～3月30日 参加者慶應大9名、スタッフ2名、同行者4名。チュラ大訪問。チュラ大生6名とチェンライへ。MFU訪問、市内観光後メーコックへ。水害被害施設の修復作業中近くで山林火災が発生、MFU学内のホテルに避難。翌日メーコックへ戻り残りのプログラムを行う。

## ⑦チャリティープログラム

### 1) チャリティーラン&ウォーク

2022年3月26日～4月10日 参加人数22名 寄付金額60,500円

### 2) チャリティー料理教室

9月3日 参加人数12名 寄付金額55,000円

## 【助成事業】

### 1) 学生団体

#### ①日中学生会議

##### ●第41回日中学生会議

【オフラインとオンラインハイブリットで開催】

テーマ：『日中友好へ、学生の挑戦。』

参加者：日本側 25 人、中国側：22 人

◆8月9日～8月25日 本会議実施

9日～12日 大阪合宿 13日～19日 オンライン 20日～25日 東京合宿

8月の本会議では5つの分科会に分かれ、日本学生と中国学生がお互いの違いを認識し課題解決に向けて議論を重ねた。フィールドワークとして、食、スポーツ、学問、メディア、各方面の有識者を招いた。また、終戦日近くである8/13に平和学習講演を設けた。また、学生たちの親睦を深めるために様々なゲームイベントなどを開催。

・本会議の他にもハイブリッドイベントを実施

◆6月18日 テーマ：「日本と中国の50周年、ヒット曲からみる。」

◆7月10日 テーマ：「本と映画で見る私と日本、私と中国」

## ②日本ロシア学生会議

●第33回日本ロシア学生会議→辞退（オンライン開催への変更により予算縮小のため）

## ③日中青年会議委員会

●第14回日中青年会議

【香港での対面による本会議を中止し、運営委員だけが集まるハイブリッド形式で開催】

テーマ：『True Peace is not merely the absence of tension, it is the presence of Justice.』

参加者：日本側：20人、中国本土側：20人、香港地域側：8人、台湾側：10人

◆3月～6月 月1～2回で日本チーム定期ミーティング実施、及びセッション作り

◆7月29日～8月4日 本会議実施（運営委員は地域別に集まり、参加者はオンライン）

◆12月 報告会実施（オンライン）

7、8月の本会議では、文化、メディアリテラシー、歴史、コンフリクトマネジメント等のテーマに分かれてセッションを行い、また夜のボンディングの時間にはゲストスピーカーを呼び、韓国や中国の被害者に取材をしてきた経験から、日本の戦争犯罪についての考えを講演して頂いた。今年も残念ながらオンラインによる開催となってしまい、参加者同士の交流等で難しい面もあったが、運営側も学びの多い、非常に有意義な一週間となった。日中問題に対して深く考えるいい機会となったが、同時に反省点もあったので成果とともに報告書にまとめた。

## ④日本・イスラエル・パレスチナ学生会議

●2022年度日本・イスラエル・パレスチナ合同学生会議

【2022年度日本・イスラエル・パレスチナ合同学生会議】

参加者：日本側12人、ユダヤ系イスラエル人：4人、

ドゥルーズ系イスラエル人：1人、パレスチナ人：4人

◆4月～7月 月に一度 Meet-up Session（オンライン交流会）

◆7月28日（6月に決定した）日本側一般参加者向け勉強会（オンライン）

◆8月16日～8月30日 本会議開始（対面）

◆10月報告書完成

8月の本会議では、前半の福岡パートにて、①心理的安全性確保のためのアイスブレイク、②文化交流のための料理会や食事会、③日本の戦争の歴史や文化などを学ぶショートトリップ（太刀洗・長崎・大宰府）、④グループワークを経てテーマ別の分科会（教育・民主主義・植民地主義・文化/家族/宗教・メディア）を行った。後半の東京パートでは、観光に加え、文化学習として茶道体験を行い、濃密な2週間の中で、友情と信頼構築、紛争に関する討議、文化交流ができた。

## ⑤一財）国際教育振興会

●第74回日米学生会議

【2018年以来初めて日米の学生たちが米国で一堂に会し、寝食を共にしつつ会議を実施】

テーマ：『交差する価値を求めて－ 一個の葛藤、世界の構築』

参加者：日本側35人、米国側26名

◆4月29日～5月1日 春合宿 実施

- ◆6月2日～3日 安全保障研修実施 米海軍横須賀基地や航空自衛隊目黒基地を訪問
  - ◆8月3日 直前研修 実施
  - ◆8月4日～26日 本会議実施
- 2018年に第70回会議を米国で開催して以来、初めての米国開催。ニューヨーク、ワシントンDC、アナポリスを訪問し、コロナ禍に悩まされながらも対面での交流討論を実施し親睦を深めることができた。アナポリスでのファイナルフォーラムの様子は現地メディアでも広く取り上げられた。
- ◆12月11日 オンライン報告会で第74回会議報告・第75回会議計画発表。

⑥日中交流学生団体 京英会

- 2022年度 日中勉強会→辞退 (コロナにより対面の勉強会中止のため)

⑦国際和解映画祭実行委員会

- 第2回国際和解映画祭

【対面実施+韓国在住受賞者の来日取りやめ】

テーマ：『和解』⇒和解について考えるきっかけを作る

参加者：1日目来場者41人、2日目102人+学生20人

- ◆7月初旬～7月末 作品募集を実施
- ◆8月～9月 理事会と合同で作品審査を実施(オンライン)
- ◆10月1日～2日 第2回国際和解映画祭開催 (対面)

10月1日の1日目では、商業映画「マインモールランド」の無料上映会を実施し、川和田恵真監督・伴瀬萌プロデューサーとのトークセッションを行った。10月2日の2日目では、コンペティション入選作品の上映と監督インタビューを行い、また、商業映画「道～白磁の人～」の無料上映会を実施し、来場者が和解について考えるきっかけが作れるよう、「和解」に繋がるテーマの企画を実施した。

⑧AFPLA 東京大学支部

- AFPLA 第15回台北大会

【台北での本大会を中止し東京での対面開催及び zoom を使用したハイブリッドで開催】

目的：東アジア地域の学生の相互交流と学問的知見の涵養を目指す

- ◆5月22日・7月3日 Social Event 実施(他支部とのオンライン交流)
- ◆6月11日 中間報告会実施
- ◆8月3日～8月7日 AFPLA 第15回台北大会開催

実施事業である8月の本大会では日本、中国、韓国、台湾から集まった大学生が東アジアについて設定された様々なトピックについて議論を行った、また期間中には文化交流の時間を設けるなど、学問的な議論以外にも交流の機会を設けた。東大支部のメンバーは都内の会議室に集まり、一部対面で会議に参加した。(大会直前の外交関係の急変により、中国の2支部は団体としての参加を取りやめ、個人単位での参加とした。)

⑨慶應義塾大学 KNOCK

- KNOCK

【KNOCK HOP STEP JUMP BEYOND】

参加者：HOP STEP (日本人参加者45人、韓国人参加者12人)

JUMP (日本人参加者29人、韓国人参加者18人)

BEYOND ワークショップ (日本人22人、外部の日本人参加者1名)

- ◆8月29～9月2日 HOPSTEP 実施
- ◆11月25日、11月26日、12月4日 JUMP 実施
- ◆3月16日 BEYOND 実施

8月、9月に実施したHOP STEP イベントでは日韓に関する問題点を模索した。11、12月に実施したJUMPではHOP STEP で出た問題点に対する解決策を班に分かれて考案した。3月に実施したBEYONDではJUMPで挙げた解決策の中から実行するものを選び、実行に移す企画を行った。

## 2) 一般団体

### ①特非) シニアボランティア経験を活かす会

#### ●外国につながる小学生の日本語支援教室

事業内容：外国につながる小学生の日本語支援教室運営

実施場所：みなみ市民活動・多文化共生ラウンジ

参加者 外国につながる児童生徒：23人(中国、パキスタン、アフガニスタン)

講師：シニアボランティア経験を活かす会会員14人(内非常勤講師4人)

実施期間：2022年4月6日より2023年3月22日まで

指導日・回数：毎月第1,2,4月曜日と水曜日(計53回実施)

指導内容：児童生徒たちが教室での活動に参加できるようになるために、低学年の児童には生活日本語・ひらがな・カタカナ・漢字等の習得を、高学年の児童には文章読解力・小学生漢字等の習得をめざしている。また、学習だけでなく折り紙やカルタ等の日本の遊びの時間もとっているため、児童にとって日本文化に触れ、日本語を使う楽しい場所となっている。

### ②G7/G20 Youth Japan

#### ●2022年度 Y7/Y20 Summit 日本代表団派遣

◆5月7日～5月8日 事前イベント実施(オンライン)

「Youth Dialogue Discussion 「日本代表団×若者」意見交換オンラインミーティング」

参加者：日本のユース50名程度

◆5月16日～5月20日 Y7サミット実施(ドイツ)

「2022 G7 Youth Summit」(主催：IJAB) 参加者：G7各国のユースとオブザーバー48名

◆7月18日～7月23日 Y20サミット実施(インドネシア)

「Y20 Indonesia 2022」(主催：Indonesian Youth Diplomacy)

参加者：G20各国のユース80名とオブザーバー

◆10月22日 成果報告会(ハイブリッド)

2022年度のY7/Y20サミットの報告ならびにディスカッションを通じた政策提言内容の周知。参加者：日本のユース50名程度

### ③特非) 世界青年友の会

#### ●フィリピン地方都市で実施する小中学生対象実験出前授業

【フィリピン地方都市での実験授業実施】

テーマ：『フィリピン離島の小学校で実験授業を実施する』

用意した実験：ウィッシュフラスコ、本による摩擦、人工イクラ、水の浄化

◆2月25日 JICA訪問 JICA：5名 留学生：4名 愛媛大学生：14名

◆2月26日 ジャヌアイパイロット小学校 生徒：33名、教師5名

◆2月27日 フィリピンサイエンスハイスクール 教師：4名 生徒：5名

◆2月28日 セントジョン小学校 生徒：9名、教師5名

過年度のZOOMによる評判もあり結果は大好評であったが、急な休日決定があり、1か所実施できなくなりました。その分2月25日にはJICAを訪問し、スタッフのみならず留学生も交え、現地の教育の現状を聞くことができました。貧富の差が大きい地域にも訪問し、現地の方々から生の声を聴くことができ、次回からの活動に役立てることができそうである。実験でも、水の浄化には教師たちも興味津々で、もっと工夫を重ねていきたい。

### ④公財) 京都国際学生の家

#### ●食を通じての国際相互理解の増進事業

【京都国際学生を介した伝統行事「コモンミール」を介して行う、食文化の国際交流】

参加者：日本学生46人、外国人留学生：89人、地域住民(日本人)：22人、

地域住民(外国人)：29人、スタッフ：17名 計203名参加

◆2022年10月7日、10月21日、11月4日、12月2日、2023年1月13日、2月17日の計6回、金曜日の夕方18時もしくは18時半より一回約2時間実施。京都国際学生の家は設立以来約60年間、「食」を通じた人との交流を行ってきた。中でも「コモンミール（食事会）」は設立当初からの伝統行事である。日本人学生と外国人留学生が協力して料理を作り、参加者に振舞う。インドや中国、台湾などのアジア料理、ドイツやウガンダ、マダガスカルなどの国際色豊かな料理が多く披露され、料理を担当した学生により、各地域の食文化や歴史も紹介された。更に毎回ヴィーガン食・ベジタリアン食を用意し、食に関する多様な文化の理解も深めた。参加者は食事を共にしながら、草の根の国際交流を楽しんだ。

### ⑤一社) アジア調査会

#### ●第34回アジア・太平洋賞

第34回アジア・太平洋賞は、外務省・文部科学省・経済産業省の後援名義を頂き6月16日に募集社告を毎日新聞・ホームページで募集した。7月13日に第一回選考会。9月12日に最終選考会を開催して大賞1名・特別賞3名を決定した。10月4日毎日新聞・朝刊に決定社告を掲載。11月14日に表彰式を開催し、受賞者、ご招待者、協賛社関係者など50名余りが参加した。

大賞：山口信治氏 「毛沢東の強国化戦略 1949-1976」

特別賞：ケネス・盛・マッケル氏 「日本国憲法の普遍と特異その軌跡と定量的考察」

特別賞：岡本行夫氏 「危機の外交 岡本行夫自伝」

特別賞：井上正夫氏 「東アジア国際通貨と中世日本 宋銭と為替からみた経済史」

### 3) 特別枠

#### ①公財) 日本国際交流センター

##### ●民主主義の未来研究会：

##### 国会議員と研究会有志によるアジア視察と日本の民主主義に関する出版

アジアは多様な背景と政治体制を持つ国々からなり、民主主義といっても十国十色。排外的に特定の民主主義観を強いるのではなく、民主主義が持つ普遍的価値を尊重し、国際社会やアジアとその価値を共有し連携を深めることを目的にこれまで数多くの議論の場を提供しネットワークを築いてきた。その下準備として地域の民主主義を語る上で、自国の民主主義も知る必要があることを踏まえ、2021年度の事業「日本の民主主義の再評価」の成果を再編集・出版を行い、特定の層だけではなく、一般世論に向けて、日本の自己評価のみならず、他の民主主義国や過渡期にある国々における民主的な統治と価値の促進を目指した。

1月にゲラ刷りが完成。4～5月中に出版予定。諸般の理由により、国会議員と研究会有志によるインドネシア視察は来年度に延期し、今年度は本の出版のみ実施した。

##### ●日米青年政治指導者交流プログラム：-アジアの中の日米関係-

##### JCIE-ACYPL 交流事業 50周年記念米国代表団訪日プログラム

テーマ：『アジアの中の日米関係』

参加者：米国訪日団5人、日本側協力者：28人、米国側協力者：12人

2023年1月6日（金）第1回事前ブリーフィング（於：オンライン）

2023年1月13日（金）第2回事前ブリーフィング（於：オンライン）

2023年1月18日（水）第3回事前ブリーフィング（於：オンライン）

2023年1月21日（土）～28日（土）訪日プログラム実施

日米青年政治指導者交流プログラム50周年を記念し、5名の米国代表団が来日。東京および長野県を訪問し、「アジアの中の日米関係」を大テーマに防衛・外交・エネルギー・経済・社会課題の各分野における日米アジアの協力関係について政府首脳や専門家、メディア関係者等と交流し、意見交換を行った。



●**ダイバーシティ社会推進：『日米女性議員交流・訪米プログラム』**

日本女性国会議員団訪米プログラムが実施不可能となった為、ダイアナ・デゲット米国下院議員来日の際、過去実施したダイバーシティ社会推進プロジェクト参加者とのダイアログ及び日本女性国会議員との対話プログラムを実施した。

◆5月26日(日)午前

過去ダイバーシティ社会推進プロジェクト参加者とデゲット米国下院議員との対話プログラム実施

参加人数：18名 同時通訳

日米の女性が抱える課題に関して情報交換及び解決に向けての意見交換を行った。

◆5月26日(日)昼

デゲット米国下院議員と日本女性国会議員との昼食懇談会

参加人数：7名（日本女性国会議員2名、大使館員・内閣府官僚含む）

両国での女性活躍に関する現状・課題等について議論。

②(公財) 国際 IC 日本協会

●**第44回 IC 国際フォーラム**

2020、21年と10月にオンラインで2日間の日程で開催してきた「IC 国際フォーラム」であるが、2022年度はロシアによるウクライナ侵略を題材として日本人の「心の開国」をテーマに取り上げ、先ず8～10月にかけてオンライン交流会として関連テーマの勉強会を合計4回開催し（講師は5名）、これらの集大成として11/3に駐日ウクライナ大使から基調講演を頂き、講演内容を参加者間で話し合い共有した。このように22年度の「第44回 IC 国際フォーラム」は4回の交流会と大使の基調講演を含む一連の行事として開催された。また、今回はコロナ対策を取った上で会場（国連大学）参加とオンライン参加の2通りで実施し、会場には51名、オンラインでは31名、計82名の参加者があった。交流会の講師は、ウクライナ人、ロシア人、オーストラリア人及び日本の「難民を助ける会」会長であり、また11/3には韓国 IC 協会会長からのご挨拶も頂き、国際色に富むフォーラムとなった。

●**資料アーカイブの作成**

アーカイブの作成は、当協会にとって長年に亘る課題であった。わが国における IC/MRA 活動の歴史を後世に正しく伝え、今後の発展に資するためである。2021年度から検討を始めたものの、当初は手探り状態が続いた。幸いなことに国際 MRA 評議会に認定されている For A New World (FANW) 財団が、IC/MRA に関する国際的なアーカイブを既に作成しており、当協会との協議の結果そのサイトに日本語を加え、日本の資料を掲載することができることとなった。

2022年4月以降、FANW のアーカイブに登録・掲載すべき資料の選定を行い、6月、8月、11月と3度に分けて計21冊の書籍を掲載した。2023年度には、国際 MRA 日本協会の機関紙「IMAJ ニュース」のバックナンバー及び写真や動画の登録・掲載を進める予定である。

③(特非) Sing Out Asia (SOA)

●**クロスカルチャー・トレーニング・プログラム (CCT)**

【ファシリテーターキャンプ】

日本4人、インドネシア7人、タイ2人、ヴェトナム2人が参加して、各国リーダー間の関係とリーダーシップの強化を目的とする8つのセッションを実施した(2022年9月12～18日)。

【CCT ミニキャンプ】

小旅行を通じて留学生と日本人学生が交流することを目的に、マレーシア3人、韓国2人、及びタイ、香港、ポーランド、アメリカから1人ずつが参加して、那須塩原・宇都宮で1泊2日のキャンプを実施した(2022年12月10～11日)。また、再会イベントとしてお花見パーティーを実施した(2023年3月29日)。

### 【CCT キャンプ】

CCTを通じて互いのコミュニケーション能力を鍛え、旅行を通じて友情を深め合うことを目的に、ヴェトナム13人、日本10人、フィリピン5人、インドネシア2人、及びタイ、カンボジア、ミャンマー、マレーシアから1人ずつが参加して、ダナン・フエ・ホイアンで9日間のキャンプを実施した（2023年3月10～19日）。

### ●アカペラ合宿&コンサート

#### 【アカペラ合宿&コンサート 2022 in 東京】

参加者：日本人16名（大学生10名、卒業生4名、引率者2名）、  
タイ人6名（大学生4名、卒業生1名、引率者1名）

開催期間：2022年10月18日～23

実施内容：マヒドン大学（バンコク・タイ）の学生と早稲田大学の学生を中心に合宿形式で交流した。22日開催の交流ライブに向けて、アカペラの練習を行うと共に、クロスカルチャートレーニングや観光、お茶体験などを通して、交流を深めた。今回のプログラムは、「アカペラキャンプ」としては初めて日本で実施したが、海外から来た学生をもてなすという点において、これまでSOAとして取り組んできたプログラム：「クロスカルチャートレーニング」、「JAPAN VISIT」での経験が活きた。

「おもてなし」の効果もあり、タイの学生から日本の学生に対して、「次回は是非タイへ来てほしい」との声があり、今回参加した学生の多くが次年度の本プログラムへの参加を表明した。

### ④公財) 国際文化会館(IHJ)

#### ●Architalk ウェビナーシリーズ：～建築を通して世界を見る～

国際的に活躍する建築家をスピーカーに迎え、建築を通して地球温暖化、地域コミュニティ醸成、資源、インクルージョン/バリアフリーなどの資源、インクルージョン/バリアフリーなどの社会課題に焦点をあてたウェビナーを2回開催した。建築と社会はテーマとして人気が高く、各回視聴者が配信から1週間で200名を超えている。（第2回については予想）

##### ◆第1回「東南アジアの都市、環境、建築」

スピーカー：ヴォ・チョン・ギア（建築家）、モデレーター：田村順子（明治大学准教授）  
2023年3月30日配信。4月6日時点で視聴：202、いいね：7

##### ◆第2回「資源的人のための建築・都市・社会」

スピーカー：塚本由晴（建築家）、モデレーター：マイケル・マーフィ（建築家；ジョージア工科大学教授）

2023年4月27日配信予定

### 【寄付事業】

- ①バーンロムサイ タイ・孤児院への寄付（OCA 国際交流事業関係）
- ②メイコックファーム タイ・孤児院への寄付（OCA 国際交流事業関係）
- ③国際IC 日本協会

### 【会費】

- ①国際協力 NGO センター（JANIC）年会費
- ②日本国際交流センター（JCIE）法人会費
- ③日本国際交流センター（JCIE）三極委員会 賛助会費
- ④国際文化会館 法人会費

## 【Ⅱ】「国際リーダー・人材育成」を図る事業（継2）

### 【助成事業】

#### 1) 一般団体

##### ①認定・特非) 外国人看護師・介護福祉士教育支援組織

###### ●タイビン市における日本語センターの設立

2022年12月、タイビン医療短期大学（ベトナム）の協力を得て「日本語センター」を開設した。その目的はタイビン省の小学生から社会人までに日本語を無料で学んでもらう機会を提供することなどである。日本語学習の開講は2023年度からの実施を予定していたが、大学の希望をいれ、2023年2月から日本語センターの宣伝や日本語学習者募集活動を実施した。3月12日、日本文化体験イベントとして「浴衣を着てみませんか」を実施した。参加者（約45名）は浴衣を着て写真撮影などを楽しんだ。日本語学習の受講登録者は小中学生5名を含む計42名（男11名、女31名）に達した。全員を受け入れ、日曜日午前（17名）と午後（25名）のクラスに分けた。3月19日、「ひらがなコース」第1回は全員を対象に日本人日本語講師が対面で90分授業をした。出席者32名より好評を得た。第2回以降はベトナム人日本語講師は日曜日対面で、日本人日本語講師が水曜日オンラインで授業をしている。

##### ②Share the Wind

###### ●農業を通じた教育支援と村の活性化

###### 【有機農法の勉強会の実施】

テーマ：有機農法を身につけることで農業コストを抑え、子どもたちの教育に繋げる

参加者：日本側1名・NGO：5名・農林水産省職員：2名・村の農家：10-20名

◆6月～7月：毎週日曜日に乾季の農作物の栽培技術を指導

◆8月：毎週日曜日にビニールハウスによる育苗や栽培を指導

◆9月～11月：毎週日曜日に雨季の農作物の栽培技術を指導

◆12月～1月：養鶏や鶏卵や鶏肉の加工や保存の指導

各勉強会ではNGOのメンバー5名に加え、村の農家が10名～20名ほど参加した。有機農法とは何か、から始まり実際に堆肥や自然農薬をつくり、栽培を体験。その難しさを肌で感じ、自分たちでできる範囲の中での農法を模索した。日系の飲食店などにも少しずつ卸を開始している。しかし手間がかかり、技術の取得にも時間を要し各農家の圃場での継続はまだ難しい段階にある。来年度以降も継続して勉強会を開催していく予定。

#### 2) 特別枠

##### ①公財) 日本国際交流センター

###### ●第15回 JCIE 田中塾

テーマ：『世界と東アジアの構造変化と日本の戦略的対応』

参加者：JCIE 法人会員企業、継続/過去参加企業、メディア、若手学者、官公庁（外務省）から17名が参加。

◆2023年1月～3月。隔週金曜日を基本に全6回の講義を実施。

◆コロナ禍以降の田中塾はオンラインで実施していたが、全6回中3回は、対面を基本にハイブリッド形式で講義を開催した。平均出席率は約85%と高水準であった。

第15期は、ロシアによるウクライナ侵攻や米中関係の悪化などこれまでのグローバルな外交からより世界を二分する分断的な外交が目立つ中で、米国、中国、朝鮮半島、欧州と各地域の状況を分析しつつ、日本外交の立ち位置や戦略的アプローチについて講義と議論を行った。また、国力低下を受けての日本の中長期戦略を外交の視点から考察

した。

## ②認定・特非) アジア・コミュニティ・センター21 (ACC21)

### ●日韓みらい若者支援事業

1. 学習会：韓国留学中の学生によるオンラインセミナー（11月、12名）、在日コリアン高校生・大学生・院生への差別：アンケート結果から見えるもの（12月、20名）、大阪コリアタウンから考える学びと共生（12月、18名）、『アジア市民』として共に生きる（3月、13名）
  2. “語り場”：日韓の教科書を読み比べる（6-7月、計3回、19名）、日韓の歴史教科書の比較から見る慰安婦問題（8月、18名）、以上講師：上山由里香氏（韓国現代史研究者）、記事<イルダ>を通して韓国の市民活動とジェンダーを考える（12-1月、3回、16名、麻生水緒氏（アジアコンズ理事長）、みんなのモヤモヤを語ろう（3-4月、2回、7名、緒方義広氏（福岡大学人文学部准教授）、斐潤哲氏（NPOスタッフ）
  3. フォーラム：元Jリーガー安英学さんと語る日韓の若者と私たちが描く未来（4月22日予定、50名前後予定）
- ほか、「2019-21年度活動報告書～日韓のよりよい未来に向けた、私たちの学びの共有～」（3月発行）、「日韓関係ダイレクトリー」（第2版）調査・発行準備

## ③アルカンシエール美術財団（原美術館 ARC）

### ●原美術館 ARC イベントシリーズ：

#### 次世代リーダーの為の感性育成プログラム

コロナ禍で美術館に足を運ぶ機会も制約を受けている「美術を学ぶ学生」、「親子」、「留学生」を対象として、美術館にバスツアーで招待し、世界の第一線で活躍中のアーティストの講演聴講とワークショップへの参加や、造形教室でのモノづくり体験、美術館と牧場で、のんびりとしたひとときを級友と過ごすツアーなどを企画・実施。

- ◆9月4日 キッズワークショップ「真夏の空の真冬の星 真昼の空の夜の鳥」実施（親子バスツアー付き）

\*本来7月に開催予定だったがコロナ禍で延期を余儀なくされた。

- ◆9月23日 美術を学ぶ学生のためのバスツアー&宮島達男特別レクチャー及び「時の海 東北」ワークショップ参加

- ◆12月27日 原美術館 ARC×群馬大学共同教育学部「グローバルアートツアー」

## ④公財) 国際文化会館

### ●インド太平洋次世代リーダーによるウェビナーシリーズ：

#### ～アジアの知性、マグサイサイ賞受賞者の声～

本シリーズにおいては様々な分断を乗り越え、協力的な社会を作り直すためにその知見をあますところなく発揮し、また積極的な活動を行っているインド太平洋のリーダーをスピーカーに迎え、下記3回のウェビナーを配信した。

#### 第1回「新型コロナ対応 マレーシアの経験」

スピーカー：コー・スウィー・ケン（医師、アンサナ・ヘルス社 CEO）

2023年1月12日配信、4月6日現在で視聴：296、いいね：7

#### 第2回「アジアの若手環境活動家の声：世界を変える一歩とその可能性」

ゲリー・ベンチェギブ（Sungai Watch 共同創設者）、坂野晶（ゼロ・ウェイスト・

ジャパン代表理事）2023年2月27日配信、4月6日現在で視聴：185、いいね：10

#### 第3回「アジアの若手環境活動家の声：世界を変える一歩とその可能性」

スピーカー：バーナデット・マドリッド（フィリピン大学チャイルド・プロテクション部局長）2023年3月30日配信、4月6日現在で視聴：74、いいね：4

### 【Ⅲ】「民間公益活動の振興」を図る事業（継3）

#### 【助成事業】

##### 1) 特別枠

###### ①公財) 公益法人協会

###### ●2022 年度民間法制・税制調査会

本調査会は、公益法人等の非営利法人のよりよい制度環境、活動環境の実現を目指す目的で開催されるものである。

◆参加者：学者7名、専門家3名、実務家6名、オブザーバー3名、事務局3名

◆調査会：2022年4月～2023年3月に5回開催(オンライン会議併用)

◆スケジュールとテーマ

4月21日 第1回調査会(基金制度の活用実態に関するアンケートの結果報告、  
学校法人のガバナンス改革の動向ほか)

5月30日 第2回調査会(学校法人のガバナンス改革の動向(評議員制度)、  
訪米調査ミッション準備状況ほか)

7月4日 第3回調査会(労働者協同組合法の施行に向けた動向と制度の概要)

9月26日 第4回調査会(新しい資本主義実現会議への対応など)

2月6日 第5回調査会(新しい時代の公益法人制度の在り方に関する有識者  
会議 中間報告について)

◆成果物：2022年度民間法制・税制調査会報告書(2023年4月公表予定)

###### ●訪米調査ミッション：

###### 米国における小規模法人対策と非営利法人会計の実務

◆参加者：学識経験者3名、専門家1名、事務局1名

◆事前勉強会：2022年4月～8月に5回開催(オンライン会議併用)

◆訪米調査ミッション：派遣期間は9月4日～15日

◆ヒアリング先：中間支援団体、現地非営利法人など34団体

現地調査では、小規模法人にとって活動がしやすく、成長できる制度環境の実現の真相、制度上の比例原則導入の実態とその影響、小規模法人の運営面、会計面の実務の実態等について調査した。最終的には調査結果に基づき、よりよい公益法人の制度環境の実現に向けて行政庁等に対して政策提言を展開する予定である。

###### ●公益法人のための ESG 投資に関する研究会の開催

◆参加者：学者1名、公益法人運用実務家12名、金融専門家10名、事務局2名

◆調査会：年度内に9回開催(オンライン会議併用)

◆WG会議：学者1名、実務家3名、事務局2名。年度内に6回開催

◆実施概要：本事業の目的は、公益法人が資産の運用を通じて持続的に ESG に貢献できる環境を用意することである。第2フェーズでは、公益法人向けの資産運用手段や公益法人向けファンド等の組成の調査研究を行った。最終的に、12月に公益法人のための ESG ファンド(ロンバーオディエ信託、ITA ファンド)を組成した。

◆成果物：毎回の議論の内容は「公益法人」誌に掲載。

「ESG 投資研究会第2フェーズ報告書」を2023年4月公表予定。

#### 【会費】

①アルカンシエール美術財団 法人賛助会費

②尾崎行雄記念財団 賛助会費

## <その他の事業>

### 【自主事業】

#### ●次世代育成事業（若手リーダー育成研修事業）

MRA の基本的精神を継承し、社会に貢献できるリーダーの育成・支援等を目的としたリーダー育成事業は、2022年度、調査研究、人材発掘、今後の方針の検討を念頭に、以下の活動を行った。

- ①これまでの MRA 運動及び MRA の基礎的精神に関する研究調査として、文献調査、デスクトップリサーチ、また、理事や評議員の MRA とのかかわりに関するオーラルヒストリーのインタビュー収録を行った。また、渋沢雅英理事の過去の講演原稿の目録作成・PDF 化も行った。
- ②人材発掘を目的とした各種催事（報告会・勉強会・交流会・面談等）を計 22 回実施し、のべ参加人数：177 名（オンライン参加含む・重複及び MRA 関係者を除いた純参加人数：96 名）にリーチし、新しい人材発掘を行った。その結果、MRA の活動に関心を持った優秀な人材との連携・参画可能な関係性を構築できた。
- ③当該事業に関する長期プランニングの策定  
本事業の全体ロードマップと具体策の検討と準備として、道徳倫理実践コミュニティ「MAMORAL」、「澁澤雅英政倫研究所」の立ち上げに向けたプランニングを行った。その一環として、アジアとの連携強化を念頭に、12月3日～6日の日程でジャカルタ視察を実施、インドネシアの角界のリーダーとの面会を行い、アジアの現状のの一旦を理解するとともに、今後の連携の可能性のあるネットワークが構築ができた。また、政治の倫理化運動に着目し、後藤新平を学ぶべく3月17日～19日の日程で岩手県視察を行った。新渡戸稲造、斎藤實なども含め先人の知恵を学ぶ、今後の活動のヒントとなる充実した視察となった。